

I

■出題のねらい

2 次方程式，ベクトル，場合の数など様々な項目についての基本的な知識を問いました。

■採点講評

空所 ， の正答率が若干低かったです。全体的によくできていました。計算ミスやケアレスミスに注意しましょう。

II

■出題のねらい

数列（漸化式）および図形と方程式について，基本的な事項を問いました。

■採点講評

総じてよくできていました。

- (1) 空所 ，， は，よくできていました。空所 は，計算ミスが目立ちました。
- (2) 空所 はよくできていましたが，空所 で符号ミスが目立ちました。空所 ， ができている人は，空所 まで正答できていました。

III

■出題のねらい

対数を含む関数の積分に関する基本的な知識と計算力を問いました。

■採点講評

- (1) よくできていました。
- (2) $\frac{1}{e}$ 倍をせずに (1) の解答をそのまま用いている誤答が多く見受けられました。
- (3) (2) を正答した人の多くが正答に至っていました。

IV

■出題のねらい

無理関数の微分積分について、基本的な知識と計算力を問いました。

■採点講評

- (1) よくできていましたが、合成関数の微分ができていない解答が見受けられました。
- (2) $f'(x) = 0$ の解で、 $x = -\sqrt{2}$ を除いていない解答が見受けられました。
- (3) (2)の結果をうまく使えていない解答が見受けられました。
- (4) 概ねよくできていましたが、 x に戻さず t のままの解答が見受けられました。
- (5) 積分範囲が間違っていたり、計算式は立てられても積分値が求まらない、もしくは間違っている解答が見受けられました。

V

■出題のねらい

対数の基礎に関する理解度および基本的な計算力を問いました。

■採点講評

- (1) 空所[ア], [イ], [ウ]は対数の基本公式からすぐにわかる問題のため、よくできていました。ただし、空所[イ]の解答を $1-A$ ではなく、 $1/A$ とするものが散見されました。対数の基本公式が正しく使えるように、よく練習しておきましょう。また、空所[エ]は、12と正しく解答した人が多かったですが、11と1つ違いの誤答もありました。小さな数の対数の値と小数の位の対応関係について慎重に考えればわかることです。このような事項は暗記ではなく、(具体例を交えて)自分が納得できるまで考える習慣をつけるようにしましょう。
- (2) 空所[オ], [カ], [キ]は既約分数の数え上げやそれらの総和を求める問題で、概ねよくできていました。空所[キ]の正答は、既約分数の総和で $\frac{930}{62} = 15$ ですが、分子の930を間違えた誤答がかなりありました。穴埋め問題では、計算ミスが致命的ですので、気をつけましょう。

VI

■出題のねらい

絶対値を含む2次関数について、不等式、グラフ、定積分、直線との交点を問う問題です。

■採点講評

- (1) よくできていました。
- (2) 多くの人できていました。一方で、接点やグラフ形状が不正確な解答が散見されました。グラフが必要になる理由を把握して、正確な記述を心掛けてください。
- (3) グラフを正確に書けていた人の多くが正答できていました。一方で、積分範囲が不正確なために正答にたどりつけていない解答も複数ありました。落ち着いて問題文を読み、丁寧に計算過程を残していけば間違いが減らせるはずです。
- (4) 題意の直線は定点 $(\frac{1}{2}, 0)$ を通り傾きが変化します。点 $(\frac{1}{2}, 0)$ が $f(x)$ との共有点になっていることから、他の共有点が1個となる傾き a を探すこととなります。 $a=0$ には多くの人たどりついていましたが、正答者は少数でした。(2) のグラフを利用すると整理が容易になります。

I

■出題のねらい

非慣性系における慣性力を題材とし、運動方程式における力と加速度の関係に関する理解度を問いました。前半では、等速円運動に関する基本知識を確認。後半では、慣性力と実際の運動を関連づけてイメージできるかを確認しました。

■採点講評

(1) 静止した物体にはたらく力はつり合っているということが、回転する円盤上(非慣性系)では成り立たないので、円運動の向心力を打ち消すために遠心力が導入されます。そのため、遠心力を及ぼす元になる物体は存在しません。つまり、遠心力には、反作用が存在しません。「見かけの力」という表記に影響されたのか、実態がない仮想的な力であるとした誤答が多く見受けられました。続く問題からもわかるように、遠心力は仕事をします。また、通常のと全く同じように物体の運動に影響します。

(2) 中心から離れる速さは一定のため、回転の半径はどんどん大きくなります。一方、回転の加速度は一定ですので、物体は徐々に速くなります。大きさが変化する力のはたらきは、横軸を距離に取った力のグラフから計算できます。この場合、三角形の面積の求め方は、「底辺」×「高さ」÷2です。「仕事」＝「力」×「距離」という公式を暗記しているだけの人は、「÷2」ができていませんでした。

(3) 遠心力だけでは軌道が曲げられないことから、第2の見かけの力がなければ物体の運動を説明できません。この力は、「コリオリ力」と呼ばれています。しかし、遠心力がした仕事が運動エネルギーの増加に等しいので、コリオリ力は仕事をしません。従って、速度に対して直角にはたらかなければなりません。これは、電磁気のローレンツ力と同じです。このことは、後で速度の成分と力の成分を求めて内積がゼロになることで確認しています。コリオリ力の向きを正しく書けていた人は少数でした。

(4) 低気圧が渦を巻くのは自転によるコリオリ力の効果です。現実には摩擦力などがはたらき、中心部へと落ち込んでいきます。右向きに曲げられるが、最終的には左巻になるというのがわからなかったようです。

全体の正答率は約40%でした。力がはたらくと運動の様子が変化する、その変化の仕方が運動方程式で決まっている、というのが力学の基本的な考え方です。計算に惑わされて、本質がみえなくならないように学習することが大切です。

II

■出題のねらい

正の電荷を持つ質点の電場および磁場での運動について、正しくイメージできるかを中心に出題しました。

■採点講評

電気と磁気分野は、公式を覚え、それを変形することに尽力してしまいがちです。ここでは、対象の挙動をきちんとイメージすることが何より大切です。前半は、正の電荷をもつ質点が電場により受ける力について問いました。問1は、電荷の正負を間違えたと思われる解答が一定数ありました。同様に、問4でも正の電荷が加速するための電場の向きを問いました。ここでも、逆向きの解答が一定数ありました。両方とも正答率は約70%でした。問3は、「進行方向に対して直角に加えられた力は仕事をしない」ということが理解できているかを問いました。“領域2”では、鉛直方向には重力のみがかかり、電場の影響はありません。水平方向は加速をするので、電場の影響を受けることとなります。よって、水平方向（電場による影響）と鉛直方向（重力による影響）それぞれで運動を考えることとなります。問5～8では、このあたりのイメージをつかめれば、後は力学の最初に習う質点の運動の問題を解くこととなります。正答率は、約40%と低かったです。

後半は、磁場と正の電荷をもつ質点の運動について問いました。問10では、フレミングの左手の法則から正答を求めることができます。電流の向きを逆にとってしまったのか、正答率は約60%とそれほど高くありませんでした。問12では、「運動中は等速であること」、「質点は $\frac{1}{4}$ 周回ること」の2つを理解していることが必要です。円周の長さを1周分で計算したと思われる解答が一定の割合ありました。正答率は、25%と低かったです。問13は、質点の運動をきちんとイメージできているかを問いました。領域Iと領域IIの境界線が図2と違って斜めとなっていますが、「向心力は円の中心に向かって力が働く」ということを理解できれば、本問のような境界線の形状は運動に関係ないことがわかります。

Ⅲ

■出題のねらい

光の干渉問題であるヤングの実験に関して、経路差の計算、経路差による位相のずれ、干渉条件、波の式等の基本的な事項について問いました。式の計算能力があるかもみています。

■採点講評

空所〔ア〕は、ヤングの実験に関する経路差の計算問題でした。空所〔ア〕の正答率は、約60%でした。問1)は、経路差の結果から干渉条件を導出する問題で、問2)は、干渉縞の間隔を求める問題でした。問3)は、観測された干渉縞の間隔から光の波長を算出する数値計算の問題でした。問1), 2), 3)はいずれも基本的な問題で、正答率はいずれも約40%でした。

空所〔イ〕,〔ウ〕は、光の波の式に関する問題でした。経路差の結果から波の位相にどのような差が生じるかを問う問題でした。また、重ね合わせによる式の計算能力も問う問題でした。空所〔ウ〕の正答率は約10%と低かったです。問4)は、二重スリットの手前に置かれた単一スリットの役目を問う問題でしたが、正答率が低かったです。空所〔エ〕,〔オ〕は、赤色から紫色までのすべての光が混合している場合の干渉縞の様子を問う問題でした。干渉縞の間隔が光の波長に比例することから考察できることが重要です。空所〔エ〕,〔オ〕の正答率は、いずれも約40%でした。

物理の現象を理解するうえで、基本的な法則を把握しておくことが重要です。教科書の内容をしっかりと理解しておいてください。そのうえで、式の計算もできるようにしてください。

化学

I

■出題のねらい

コークス（炭素）と二酸化炭素から一酸化炭素が発生する反応系を取り上げ、化学平衡および熱化学反応について基本的な概念を問いました。

■採点講評

赤熱したコークス（炭素）と二酸化炭素を反応させると、一酸化炭素が生じて平衡状態になります。この反応系のように固体が含まれている場合、平衡定数を表す式には固体は入りません。そのことは、問題文の中にも記述しましたが、平衡定数を表す式の中に固体の濃度 $[C]$ が入っている解答が多く見受けられました。問題を解答する前に、問題文をよく読むことが大切です。また、この問題では文字式で解答するものを多く出題しました。日頃から文字式を用いた表し方に慣れておいてください。

(2) 3) の問題は、一酸化炭素の分圧を求める基本問題です。予想より正答できていませんでした。4) の文字式は、約分して最も簡潔な形で解答する必要があります。約分をしていない、複分数での解答が散見されました。(4) の問題は、ヘスの原理を利用して反応熱を計算する問題です。生成熱の定義をしっかりと理解していない受験者は符号を間違えていました。また、生成系には 2 mol の一酸化炭素が生成します。生成系を 1 mol の一酸化炭素とした計算ミスが目立ちました。熱化学反応は、入試問題で頻出の出題分野です。さまざまな反応熱をしっかりと理解しておいてください。(5) の問題は、平衡移動の原理（ルシャトリエの原理）を用いた基本的な問題です。受験者のほとんどが正答できると予想していましたが、予想に反して正答率がかなり低かったです。特に 6) は、本文中にこの化学平衡では固体の体積が無関係であるという主旨の記述があるにもかかわらず、コークスの量を増やすと平衡は右に進むと勘違いしている受験者が多く見受けられました。

II

■出題のねらい

炭酸ナトリウムの工業的製法（ソルベー法）を取り上げ、基本的な無機化合物に関して、その名称、反応式、性質、および反応の定量を問いました。

■採点講評

教科書レベルの問題であったため、全体的によくできていました。正答率は約60%でした。無機化学の分野は得点しやすいため、ケアレスミスのないようにしましょう。塩化ナトリウム、二酸化炭素、アンモニアおよび水から炭酸ナトリウムを製造する方法に関する問題は頻出です。誘導がなくても、化学反応式が書けるようにしておいてください。さらに、炭酸カルシウムから塩化カルシウムを得る過程で発生する二酸化炭素およびアンモニアを炭酸ナトリウムの製造の原料として用います。(1)、(2)は、よくできていました。(3)炭酸ナトリウムの性質として、“③空気中に放置すると、空気中の水分を吸収して溶ける。”を選んだ解答が目立ちました。炭酸ナトリウムの性質をしっかりと整理しておいてください。i) 白色の固体で水によく溶け、水溶液は塩基性を示す。ii) 硫酸を加えると反応し、二酸化炭素を発生する。iii) 炭酸ナトリウム十水和物は、空气中で結晶水の一部を失い、粉末状の炭酸ナトリウム一水和物になる（風解）。また、iv) ガラスの製造などにも用いられています。(4)は、リード文も含め、問題文をしっかりと読み取る力が培われているかを試す問題でした。解答の際は、有効数字に注意しながら、落ち着いて考えると、正答にたどりつきます。また、以下の点に注意して解答してください。

1) 原料である塩化ナトリウムと同じ物質量の化合物A (NaHCO_3) が生成します。
2) 炭酸ナトリウムは、Aの物質量の2倍量が生成します。このことから、炭酸ナトリウムの質量を求めます。
3) NH_4Cl (化合物B) と $\text{Ca}(\text{OH})_2$ (化合物D) が反応すると、 CaCl_2 、 NH_3 および H_2O が、それぞれ 1 : 2 : 2 の物質量の比で生成します。
4) 塩化カルシウムを製造する際に発生するアンモニアの物質量と炭酸ナトリウムを製造する際に用いられるアンモニアの物質量をそれぞれ求める必要があります。

III

■出題のねらい

有機化学の基本的な内容の確認を目的として、芳香族化合物の分野から、代表的な一置換ベンゼン誘導体を取り上げ、その名称、構造、性質、および反応性を問いました。

■採点講評

(1) は、一置換ベンゼン誘導体の性質や合成方法を手掛かりに、その化合物を特定し、名称と構造式を問う問題です。アニリンに関する問題では、本文中に中和処理する記載があるにもかかわらず、塩酸塩で名称と構造式を解答していたものがありました。また、トルエンの酸化で得られる化合物としては、ベンズアルデヒドと安息香酸の2つの可能性があります。実際に得られた生成物の性質から安息香酸が正答であることが特定できます。有機化合物は名称だけでなく、構造と性質についても学んでおいてください。構造式では、官能基の記入ミスが多く見受けられました。スルホン酸基の水素が抜けたり、アミノ基の水素が3つあったり、ニトロ基の酸素が3つあるなどが主な誤答です。日頃から正確に書く練習をしてください。(2) は、アセトンとフェノールを工業的に合成する方法として用いられているクメン法に関する問題で、比較的よくできていました。(3) は、ピクリン酸に関する問題ですが、トリニトロトルエンと間違えたものが少なからず見受けられました。(4) は計算問題ですが、BHCをヘキサクロロベンゼンと間違えて計算したと思われる誤答が多く見受けられました。誤解のないように、BHCの名称としてヘキサクロロシクロヘキサンを併記し、ベンゼンの付加反応で得られると明記してありました。よく問題文を読んだ人は、正答にたどりつけていました。この問題の正答率は、特に低かったです。

有機化学を勉強してきた人にとっては基本的で容易な問題が多く、全体的によくできていました。

生物

本学の生物の入試問題は、教科書の内容を基本としており、教科書をしっかり勉強することが最大の入試対策です。教科書の図版の内容や「探究」といった項目も出題の対象になりますので、しっかり勉強してください。

A日程1日目では、「生命の起源」、「生物の系統」、「一次生産」、「動物の発生」、「体内環境の調節」、「代謝とエネルギー」、「動物の刺激の受容と反応」をテーマに出題しました。

I

■出題のねらい

(1) では、生命の起源に関する基本知識と関連する生物の系統、および1次生産をテーマに出題しました。生物とはそもそも何か、どこから生まれ、どのようにして現在の生物多様性が生じたのかについて基本的知識を問いました。(2) では、動物における初期発生の流れとそのメカニズムについて、基本的な知識を確認しました。教科書でお馴染みのアフリカツメガエルの発生に関する問題を中心に、組織分化や幹細胞の問題を出題しました。

■採点講評

正答率は、約54%でした。(1) 1) 穴埋め問題では、空欄5の正答率が約40%で、化学進化を化学合成と解答したものが多く見受けられました。確かに、化学進化のプロセスには化学合成が含まれますが、“生命が誕生する以前の有機物の生成過程”を説明する用語としては不適切です。より文脈に適した選択肢を選ぶように心掛けましょう。2) では、系統に関する基本知識が不足している解答が多く見受けられました。選択肢の内容は、全て教科書レベルです。一つ一つの用語を正確に覚えて正答できるようにしましょう。同様に、4)、5) も教科書レベルの内容ですが、正答率が低かったです。4) のように、教科書で主に図を使って説明されている内容が、文章問題として出題されることは珍しくありません。図を見て、その内容を言葉で説明できるようにしておきましょう。

(2) 1) アフリカツメガエルの発生に関する穴埋め問題は、教科書では基本的な内容ですが、全体的に正答率が低かったです。動物半球と植物半球、原口背唇部と灰色三日月環の区別ができていない解答が多く見受けられました。紛らわしい用語ですが、入試では出題されやすい分野です。しっかり覚えておきましょう。また、胞胚と胞胚腔を取り違えた誤答も多かったです。このように、よく似た用語を取り違えるケアレスミスには十分注意しましょう。2) では、カエルの卵割は不等割で、3回目で異なる大きさ

の細胞が生まれるということを解答できていないものが目立ちました。卵割はウニ、カエル、ニワトリ、シヨウジョウバエなどでそのパターンが大きく異なります。教科書で説明のある内容ですので、正確に覚えておきましょう。

II

■出題のねらい

(1) では、内分泌系、特に糖尿病に関する基本的な問題、グルコースに対する血糖とインスリンの応答に関する容易なデータ考察問題を出題しました。(2) では、運動時のガス交換の測定データから呼吸商を求める問題を、(3) では、脳の構造と神経細胞および筋肉の性質に関する基本的な問題を出題しました。

■採点講評

正答率は、約47%と低かったです。(1) 1) ホルモンに関する基本的な問題でしたが、2問とも正答した人は約20%でした。“誤っているもの”を選ぶという指示をしっかりと読んでいないと思われる解答がありました。問題の指示は、落ち着いて読みましょう。3) は、やや細かい内容でしたが、中脳、間脳など、脳の各部位の機能を正しく理解していれば正答できる問題でした。5) では、糖尿病に関してやや発展的なことを出題しました。内容は医学的に重要なものですので、今後も出題される可能性は高いと思われます。

(2) で使われている測定方法自体は、教科書に記載がないものですが、本文中の説明文を基に十分計算できます。呼吸商は、教科書の知識を基に計算することができます。「呼吸商 = 単位時間当たりのCO₂排出量 ÷ 単位時間当たりのO₂消費量」という呼吸商の定義を知っていれば、計算は難しくありません。ここでは、生体物質の呼吸商の知識も必要でした。計算問題は、多くの練習が必要です。教科書に加えて参考書の問題を解き、練習するようにしましょう。

(3) は、脳の各部位の名称と機能に関する問題です。全体的に正答率は低かったです。テーマになっている神経解剖・生理学は覚える内容が多く、関連付けしづらいため、苦手意識をもっている人も多いと思います。しかし、脳を理解するうえでは、必ず必要な知識です。教科書の図は簡略化されているためイメージがしづらいかもしれません。インターネット上の動画などを利用し、理解を深める工夫をしましょう。特に、脳幹部に関する問題は、馴染みのない部分のためか、正答率が低かったです。

I

■出題のねらい

日常的な会話の内容を正確に理解する問題です。二者のやりとりの流れを的確にとらえましょう。話題は「結婚披露宴の余興」です。誰が誰に何を依頼しているのか、また、依頼された人はどのように返答しているのかを、正確に把握しましょう。

■採点講評

どの問題も正答率は比較的高く、5を除いて50%を超えていました。ただし、満点の人は約15%でした。比較的誤答が多かった5は、RieがNateのどんな依頼に同意したかを選ぶ問題でした。会話の終盤の内容に意識を払ってしまったせいで、最も重要な同意内容を誤解し、選択肢②を選んだ人が多かったです。

II

■出題のねらい

ドキュメンタリー番組用の水中撮影に関するEメールを読み、ポイントとなる情報を的確に読み取る力を問う問題です。撮影する側の仕事内容がどのようなものを想像できれば、細部までイメージを膨らませながら正確に読み取ることが可能でした。また、情報の多さに惑わされず、必要な部分を素早く見つける能力が必要になります。

■採点講評

この問題も正答率は比較的高く、全て50%以上でした。特に、比較的区別が難しいと思われる7の正答率が最も高く、約70%でした。あまり馴染みのない語彙があったとしても、基本的な語彙力・文法力に基づいて類推することで、全般的な内容を正確に把握できる問題でした。

III

■出題のねらい

日本の火山における警戒システムに関する英文です。英文から火山の数や警戒レベルの変化、年度などの数字を正確に読み取り、各組織がどのような仕事を分担しているのかを理解する必要があります。図の問題では、選択肢に用いられている比較級を読み解くことがポイントです。

■採点講評

最近、日本で火山活動に関するニュースが頻繁に流れているからか、かなりレベルの高い語彙が含まれているにもかかわらず、正答率が高かったです。日頃から、社会的なニュースに注目しておきましょう。[11]のみ正答率が50%以下でした。“under + 名詞”には、頻度の高い組み合わせがいくつか存在します。“watch”もその一つです。

IV

■出題のねらい

救命救急医療の現場で、医師と看護師を乗せて緊急に手当てが必要な患者のもとに向かうドクターヘリの英文です。調査によると、日本全国のドクターヘリ出動回数は2002年と比べて2013年は9倍近くになっています。ドクターヘリの導入が患者の生存率を高めることから、その導入要請は増えています。これらの事情と、これに伴って生じる問題点を丁寧に読みましょう。関係詞節を伴った複雑な文章構造も多用されていますので、先行詞は何になるのか（何を説明しているのか）を常に念頭に置いて読みましょう。

■採点講評

英文の内容を理解できている人が多かったようです。半数以上の受験者が50%以上の正答率でした。ただし、語彙力・文法力の差が明確に表れる問題もありました。例えば[16]で、動詞“use”と“utilize”が入れ替え可能であることを理解できた人は30%しかいませんでした。また、[23]では、“a number of”と“the number of”の意味の違いを十分に理解できていない人が多いようでした。内容の理解に基づく問題で、選択肢が英語の場合、多少正答率が下がるようです。選択肢一つ一つを正確に理解するよう努めましょう。なお、この長文の英文には数字や倍数・割合に関わる表現が数多く利用されています。理工系分野に進学する人にとってはとても基本的な表現です。しっかり学習しておきましょう。

V

■出題のねらい

日本古来の行事である七夕について述べた文章です。(1)の並べかえ問題では、1)主語と動詞の呼応、2)「be said to+動詞原形」の構文、3)受動態の現在完了形の構文など、基本的な文法事項を取り上げました。(2)は、英文全体の内容が把握できているかどうかを問いました。

■採点講評

多くの人が、英作文の解答にはやや苦勞したようです。正答率は全て約50%でした。一方、30の正答率は、50%以上でした。選択肢④を選んだ人が多かったです。“other than”や“no longer”など、イディオム的な語句の意味や利用法も、正確に把握しておきましょう。

該当部分の正しい語の並び方は、次のようになります。

- 1) ③write ⑤their ④wishes ②on
- 2) ⑤are ②said ①to be ④mixtures
- 3) ③they ①have ⑤been ②allowed

講評

I

出典 浜田寿美男『「私」とは何か』、講談社、1999年

身体による体験から、いかにことばが立ち上がってくるかについて述べた文章です。難しい表現はありませんが、順を追って内容を把握していくことが求められます。

問1【漢字問題】(解答番号は①～⑦)

7問とも正答したのは3%でした。正答を示しておきます。

a 膨大 b 臨場 c きょう d きよむてき e 両義 f ばく g 消滅

問2【空欄補充 文脈把握】(解答番号は⑧・⑨)

空欄Ⅰには「しじゅう何気なく経験している」という内容が入るため、正答は④となります。空欄Ⅱは直前部分で説明されていることから考えると、正答が②となります。正答率はそれぞれ81%、90%でした。

問3【空欄補充 文脈把握】(解答番号は⑩)

これまでの文脈および、この文章の最後の2行に書かれている身体と観念との関係から考えると、観念が身体を縛る、ということが導き出せるため、正答は①となります。正答率は21%でした。

問4【空欄補充 文脈把握】(解答番号は⑪)

「身体でじかに体験」していることと、ことばによって立ち上がる「もう一つの世界」とを対比させており、正答は④となります。正答率は90%でした。

問5【空欄補充 文脈把握】(解答番号は⑫)

[yuki]と「雪」、[kaze]と「かぜ」とが並列で説明されており、無意味な綴りである「かぜ」と対比される「雪」がどのように説明されるかを考えると、正答①が導き出せません。正答率は48%でした。

問6【空欄補充 文脈把握】(解答番号は⑬)

「死」のような身体で体験できないものさえもことばによって受け止められる、という意味で、「雪や風にもひけをとらない」と同義の内容が入ります。正答は②です。正答率は55%でした。

問7【空欄補充 文脈把握】(解答番号は⑭)

死んでしまえば自分の死の経験を語ることができず、出生時には生を経験として受け止める「私」が成立していない、という本文中の内容から、正答②が導き出せません。正答率は53%でした。

問8【傍線部の説明 文脈理解】（解答番号は15）

正答は③です。ことばと身体を対比させた上で、ことばの性質とは違った身体の特徴について述べられています。正答率は60%でした。

問9【内容理解に関する問題】（解答番号は16）

「適当でないもの」を選択するという設問に注意が必要です。本文中に「身体が生きる世界を離れ、それとの関係の一切を断ってしまったところでは、個々のことば自体が意味をなさない」とあり、正答は③です。正答率は47%でした。

問10【小見出し補充】（解答番号は17）

この章では、ことばが身体に根ざしつつも身体を越えるものであるという両義性が述べられているので、正答は⑤です。正答率は35%でした。

問11【内容合致】（解答番号18）

正答は①・⑤です。②は「あたかも生死を経験したかのように語る」、④は「身体を離れて固有の意味を」、⑥は「切り離されてこそ」が間違いです。⑦・⑧は本文中に書かれている内容と異なります。「あっ、雪！」という声だけでは「まだことばの宇宙とまではいえまい」と本文中にあるため、③は不正答です。正答率（完答）は10%でした。

II

出典 乾正雄『夜は暗くてはいけないか 暗さの文化論』、朝日新聞社、1998年
暗い場所における目の働きについて述べた文章です。聞き慣れない用語もありますが、内容を整理しつつ読めば、わかりにくいということはなかったと思います。

問1【漢字の書き取り問題】（解答番号19～25）

漢字の全問正答者はいませんでした。日常から漢字の練習をしておきましょう。

問2【空欄補充 前後の文脈から接続詞を導き出す】（解答番号26～28）

空欄Ⅰは、前段の内容と異なり、瞳の大きさが中心であることから、付け加えの⑥「なお」、空欄Ⅱは「たとえば」も入るようにはみえますが、その後のつながりを考えると、文章が読み取れなくなります。正答は⑦です。空欄Ⅲの正答は⑨です。

問3【空欄補充 文脈把握】（解答番号29）

2行前にある「ところが」に着目できるかどうかです。この前後でまぶしさに関する違いが対比されています。

問4【空欄補充 文脈把握】（解答番号30）

黒い眼と青い眼との対比が行われていることを踏まえると、正答は②です。

問6【傍線部の説明 文脈理解】（解答番号は32）

傍線部は日本人が光量を気にする人が少ないことを意味しています。直前に欧米のことが書かれているので、それらを踏まえると、正答は⑥となります。正答率は26%でした。

問7【傍線部の説明 文脈理解】（解答番号は33）

次の段落に「ここから先」の記述があります。この内容を押さえ、かつ明るいときとどう異なるのかということ述べた③が正答です。正答率は88%とよくできていました。

問8【傍線部の説明 文脈理解】（解答番号は34）

傍線部Cの前段落までを押さえた選択肢を選ぶと、正答は③です。正答率は57%でした。

問9【空欄補充 小見出しを付ける】（解答番号35）

第一段落では、虹彩とそれにかかわる目の色の違いについて述べています。両方を満たす選択肢は⑤です。正答率は33%でした。

問10【内容合致】（解答番号36）

正答は④・⑧です。各選択肢の間違ひは以下のとおりです。①身体的な構造が～生物学的に指摘、②虹彩の裏側～一体であることによる（表側と裏側にある）、③欧米人しか気づいていないこと、⑤効果の差が出ない、⑥人の眼にのみ見られる特徴的な機能、⑦一般的に考えられている。該当する個所と照らし合わせれば、難しくありません。落ち着いて解答するようにしましょう。正答率は30%でした。